

令和五年度 全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会

知事賞

激励賞

中央審査

佳作

## 「川の汚染」

砥部町立砥部中学校

三年

石原 優花

いしはら

ゆうか

私にとっての「水」とは、きれいで透明なもの、とずっと思ってきました。あるとき、私は「川をきれいにしよう」というボランティアに参加しました。初めは「そんなにゴミなんてないだろう」と思っていました。しかし、実際に川を見てみると、お菓子の袋や飲みかけのペットボトル、ナイロン袋、さらにはプランターまでありました。きれいだと思っていた川の底には、空っぽだった袋がパンパンになるほど大量のゴミがあったのです。このまま川が汚染され続けると、私たちにどんな影響があるのか、また、それを防ぐために何ができるのか、調べてみました。

川の汚染が引き起こす身近な問題は二つあります。一つ目は、動物が安全に生活できなくなってしまうことです。現在、川で生活する鳥にゴミが引っかけかけてけがをしたり、魚が餌と間違えてゴミを食べたりしていることが問題になっています。川と海はつながっているのです、もちろん海に住む生物にも影響があります。魚がナイロン袋をクラゲだと思って食べてしまうというケースを聞いたことがある人もいると思います。私自身、水に浮かんでいる袋をクラゲと間違えてしまったことがあります。人間でも間違えてしまうことがあるのです。もし自分が食べた魚からプラスチックの破片が出てきたらどう思いますか。少しくらいいいだろうと思って捨てたそれは、川から海をたどっていつかは魚に、そして自分の口に入ってしまうかもしれません。

二つ目の問題は、「水道水」が安心して使えなくなってしまうことです。川からは、人が生活するために必要な水を引いています。その川の水を汚してしまうと、水道水として使えるようにするためにたく

さんの時間とお金が必要になります。きれいにできるならいいのでは  
と思うかもしれませんが、水をきれいな状態にするには消毒液を使う  
ため、カルキ臭い水になってしまいます。私の祖母の家の近くの川は  
とてもきれいです。蛇口からひねった水は冷たく、そのまま飲んでも  
おいしい水です。そのおいしい水を私たちは自ら汚してしまっている  
かもしれないのです。

水辺の生物たちが安心して生活するために私たちにできることは、  
ゴミを正しく処分することです。そうすることで、ケガや異物の誤飲  
を防ぐことができます。それでも魚は困ってしまいます。水質の問題  
です。水質は、水のおいしさにも関わってきます。水質が悪いと、きれ  
いな川でしか生活できないメダカやアユ、サケなどが生きていけなく  
なります。水質の悪化が進むと、汚れに強いと言われるコイやフナで  
さえも住めなくなる可能性があります。きれいな川を好む魚はだんだ  
ん減ってきているそうです。魚の減少を止め、住みやすくするため  
も、きれいな水を保たなくてはなりません。

川の汚染の一番の原因は生活排水です。二〇一三年の国土交通省の  
データによると、とある川の汚れの原因の七二・八%が、日常生活か  
ら出た汚れによるものでした。私たちの行動が川の水を汚してしまっ  
ているのならば、私たち一人一人の行動次第で川の水を変えることも  
できるはずです。例えば洗剤を使いすぎないことです。食器を洗うと  
きは、油汚れなど汚れのひどいもの以外は水洗いだけでも汚れを落と  
すことができます。また、食器を洗う前に油汚れを拭き取ったり、残  
った油を継ぎ足して使ったりすることで、なるべく汚れを流さないよ  
うにすることもできます。食事は必要な分だけを作り、飲み物は飲み  
きれ分だけ注ぐようにすることも大切です。

私たちがこのまま何も気にせず今の生活を続けていると、日本か  
らおいしい水が消え、魚の泳ぐきれいな川がなくなってしまうかもしれ  
ません。だから、自分のちよつとした行動や、一人一人の毎日の積  
み重ねがこれからを変えると思って、水を守っていききたいです。